

文化財センター通信
【かぎぐるま】

風車

5

平成14年8月1日発行

発行：財団法人 和歌山県文化財センター

〒640-8268 和歌山県和歌山市広道20番地

Tel: 073(433)3843 Fax: 073(425)4595



■ 清川中学校体験発掘授業風景

主な内容

通信その1：体験学習における子供たちとのふれあい—吉備町藤並小学校・南部川村清川中学校—

通信その2：海南整理事務所開設文化財建造物について

お知らせとご案内

—センター考古学講座のご案内

通信その1 体験学習における子供たちとのふれあい

—吉備町藤並小学校・南部川村清川中学校—

黒石 哲夫

昨今の学習指導要領の改定にともない、総合学習の授業が導入されて、小・中学校では様々な取り組みがなされています。その中で、地域の歴史を発掘現場や博物館などからダイレクトに学びたいという要望が先生方や生徒たちからあがり、考古学の体験学習授業が全国的な広がりで行われるようになりました。当センターにも同様の照会があり、4月以降、小学6年生の社会科の授業への講師派遣（いわゆる出前授業）と中学1～3年生の発掘調査現場見学（いわゆる体験発掘授業）を行いました。以下その内容を紹介します。

5月1日・午前9時、吉備町立藤並小学校の6年生の教壇に藤井幸司技師が立ちました。社会科授業の一環として、縄文土器を実際に生徒たちに触れてもらい、文化財を身近に感じてもらう目的でした。6年生学級全クラスの3クラスで午前中に順番に行いました。

藤井技師は実物の縄文土器を持参し、縄文時代や土器の説明を行い、特に名前の由来となっている縄文の施し方について、紙粘土に実際に模様をつけて実演しました。その後、生徒のみなさ

んにも紙粘土の上に縄文原体で模様をつけてもらい、実物の土器との比較をおこないました。生徒たちは静かに授業を聞き、土器観察や施文実演を熱心してくれました。今後、この授業の続きとして、実際に発掘現場に見学に行き、理解を深める予定です。

5月20日・午後1時30分、五月晴れの青空の下、南部川村立清川中学校の全校生徒47名が当センターの南部川村徳蔵地区遺跡発掘現場に総合学習の一環として見学に訪れました。同校では「総合的な学習の時間」を「リサーチタイム」と名付け、今年はふるさとをテーマに、個々の生徒が関心を持った課題を設定し、調査活動を進めています。その課題を決める上で一つの参考になればとのことでした。

現場を担当している黒石と藤村瑞穂専門調査員が、A3版4頁のテキストをもとに考古学や発掘調査の進め方、徳蔵地区遺跡などをわかりやすく説明しました。

現場では、縄文時代から中世にいたる様々な土器に直接ふれたり、土を削って遺構を検出したりしました。最後に高速道路建設現場に移動して、道路が建設されることによって生活は便利になるが、その一方では遺跡が破壊され、そのための記録保存処置として、発掘調査を行っていることを説明しました。

今回の現場訪問で、郷土の歴史に興味をもち、リサーチタイムのテーマに遺跡や考古学をとりあげてもらえればありがたいと思います。

通信その2 海南整理事務所開設

土井 孝之・黒石 哲夫

本年6月より、海南省築地1番地7に当文化財センターの海南整理事務所が開設されました。国道42号線に隣接した重厚な赤レンガ造りの鉄筋コンクリート3階建ての2階部分で業務を行っています。

業務の内容は日高郡南部町・南部川村で平成7年度～13年度にかけて調査を行った徳蔵地区



■ 海南整理事務所

遺跡・高田土居城跡の出土遺物整理作業と東牟婁郡那智勝浦町で平成10年度～12年度にかけて調査を行った藤倉城跡・川関遺跡の出土遺物整理作業です。両遺跡とも高速道路建設に先立ち大規模な調査が行われ、発掘現場ではこれまでの常識をくつがえすような新発見が相次ぎ、新聞紙上をしばしば賑わしたものです。

コンテナに収納した出土遺物や机やロッカーなどの備品を搬入し、内部を



■ 整理作業風景

改装して、さあスタートです。徳蔵地区遺跡の整理は土井、藤倉城跡は黒石が担当し、藤村専門調査員がこれを補佐しています。実際の作業は20数人の整理作業員の方々が2チームに別れて行っています。もう何年もこの仕事に従事するベテランの人から初めて土器をさわる人もかなりいます。作業台の上に土器を広げてみると、調査当日の日付のラベルが入っており、悪戦苦闘をした、また感動もした、多くの人

々に出会えた現場での思い出がよみがえってきます。

海南整理事務所では両遺跡の出土遺物整理作業の見学及び、小・中学生を対象とした体験学習講座も実施しようと企画中です。詳細は下記事務所まで、お問い合わせ下さい。

〈問い合わせ先〉

〒642-0031 海南市築地1番地7

(財)和歌山県文化財センター 海南整理事務所

徳蔵地区遺跡整理部門(担当:土井)

電話 073(483)4277

藤倉・川関遺跡整理部門(担当:黒石)

電話 073(483)4278

文化財建造物について

寺本 就一



文化財建造物には、神社・寺院・お城・民家に、明治時代の洋風建築など様々なものがあり、明治丸という明治7年に造られた帆船も建造物の仲間です。

近年、近代化遺産も文化財建造物の仲間入りをしました。近代化遺産とは日本の近代化に貢献した建造物で、近代的な手法で造られた産業・交通・土木に関わるものです。例としては重要文化財に指定されている三池炭坑の施設、碓氷峠鉄道施設(旧信越線横川・軽井沢間)、東京の日本橋などがあります。これらの施設は、今までの文化財とは異なり活用に重点を置いた保護施策が採られているのも特徴です。

また、文化庁は平成8年から文化財登録制度を発足させました。地域や企業の活性化のために活用しながら、緩やかな規制



■ 上御殿本館（龍神村）

をかけて、文化財を守っていく制度です。小岩井農場の建物、東大の安田講堂、京都の南座、大阪城の天守閣などがその例です。和歌山では住宅の登録が多いようですが、龍神村の旅館、上御殿本館なども登録されています。建築後50年を経過したものという基準はありますが、皆さんに昔から親しまれている建物・橋・トンネル・駅・港など心当たりがありましたら市町村の教育委員会を通じて県の文化財課へ連絡してみてください。

今、皆さんが目にしてしている社寺の建物は明治時代の廃仏毀釈や神社合祀令による破壊を、近代化遺産は開発による建て替えの波を乗り越えてきた貴重なものであることは言うまでもありません。普段なにげなく見過ごしている、先人が苦勞して残してきた建物や構造物に、もう一度暖かい目を向けてあげてください。

お知らせとご案内

センター考古学講座のご案内

当センターでは調査成果を広く県民のみなさまに知っていただくため、7月から3月まで、毎月1回考古学講座を開催します。講師は、実際に調査を行った当センターの職員が担当します。講座の終了後は、整理作業中の南部町・南部川村徳蔵地区遺跡と那智勝浦町藤倉城跡の出土遺物を見学できます。お気軽に参加し、和歌山県の歴史を身近に感じてください。

・参加費無料、定員40名（受講を希望する方は、当日会場へお越しください。）

・会場 財団法人和歌山県文化財センター

海南整理事務所（JR海南駅から西へ徒歩約8分）

〒642-0031 海南市築地1-7

電話 073(483)4277・4278

【講座】

第1回 7月27日（土） 13:00

富加見泰彦 「渡来文化の受容—紀ノ川水系を中心として—」

第2回 8月24日（土） 13:00

土井孝之 「弥生時代の和歌山県」

第3回 9月28日（土） 13:00

富加見泰彦 「海に生業を求めた人々—和歌山市西庄遺跡の生産活動を中心に—」

第4回 10月26日（土） 13:00

黒石哲夫 「和歌山県における後期古墳時代の集団関係—岩橋系横穴式石室を中心に—」

第5回 11月30日（土） 13:00

渋谷高秀 「南部町・南部川村徳蔵地区遺跡—考古資料からみた歴史変遷—」